

大杉谷森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	近畿中国森林管理局・三重森林管理署
所在地・面積	三重県多気郡大台町 ・ 1,390.75ha
設定年	平成3年3月28日設定、平成30年4月1日管理方針書設定

保護林の概要

当該区域は、日本有数の多雨地帯で、原生的な自然植生が広がっているのが特徴である。標高も1,695m～350mと高低差があり、標高800m付近まではカシ類を主とした暖温帯性常緑広葉樹林で、標高800m～1,350m付近はモミ・ツガを主とした中間温帯林、標高1,000mを超えるあたりからブナ・ミズナラ等の冷温帯性落葉広葉樹林、それから頂上まではトウヒやコメツガ等の亜高山性針葉樹林となっている。

紀伊山地においては、亜高山性針葉樹林や冷温帯性広葉樹林がまとまって分布する希少な地域で、冷温帯性植物、着生植物、岩崖性植物の他、北方系の遺存植物や山岳性の植物も多く生育しており、学術上からも自然景観の上からも貴重となっている。

森林植生は、尾根～斜面地にウラジロモミやモミ、ブナ、ツガ等の大径木からなるウラジロモミ群落やブナ-ミズナラ群落、ツガ群落の老齢林、谷部にミズメ群落の成熟林等で形成されている。

下層植生はホンシャクナゲやスズタケ、ミヤコザサ等が生育している。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和4年度
調査項目	森林タイプの分布等調査、樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、野生生物の生息状況、山火事等災害発生状況調査、病虫獣害・気象害発生状況調査、利活用実態調査、管理体制実態調査

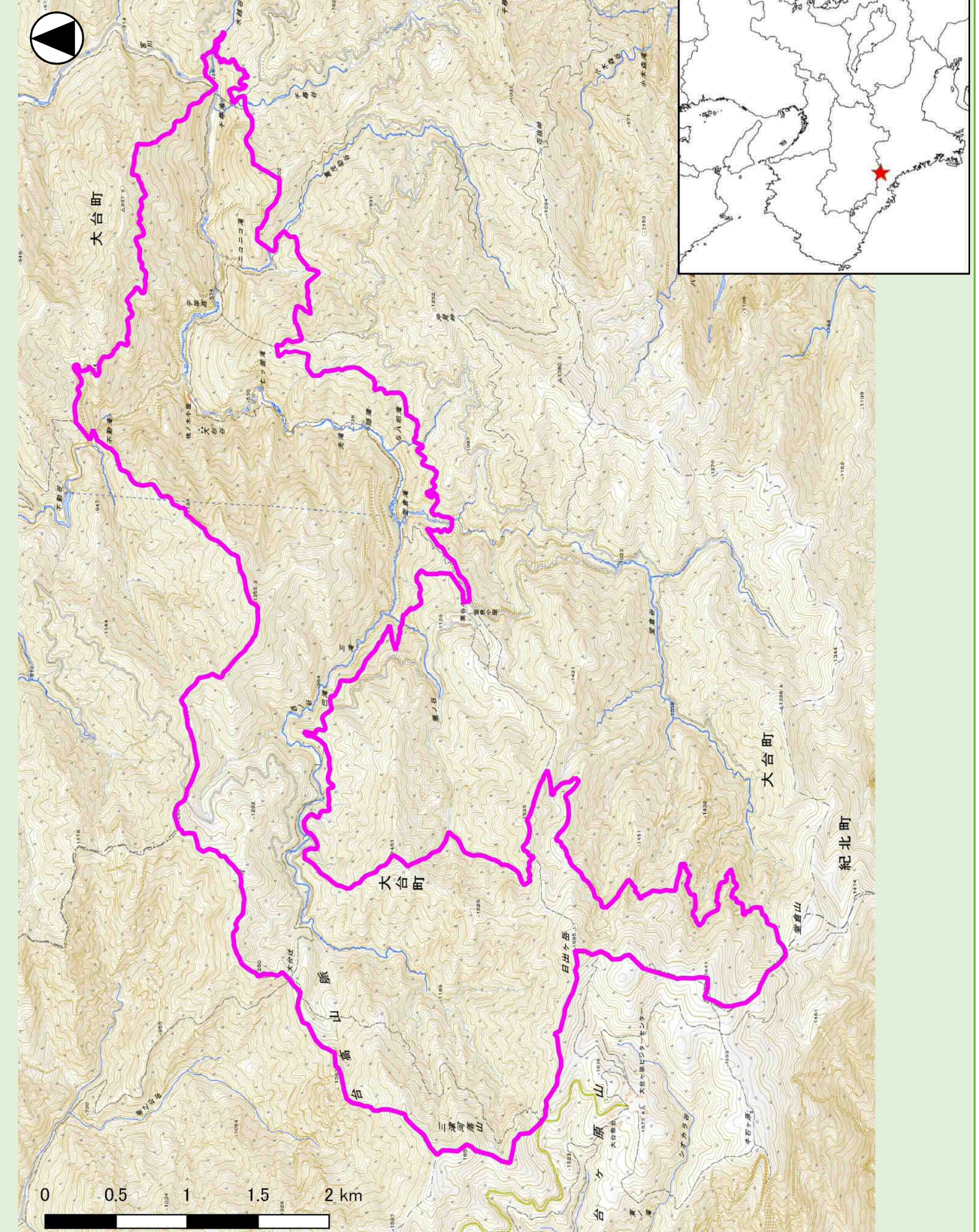
結果概要

ウラジロモミ群落やブナ-ミズナラ群落、ツガ群落等の森林において、ニホンジカによる食害や剥皮被害の影響が見られた。大台ヶ原の尾根部を中心に、ウラジロモミ等の立ち枯れ被害や下層植生の衰退といった原生的な天然林等の維持・更新への影響が確認された。

尾根部以外においても、踏査区間でニホンジカの食害により下層植生が明らかに衰退している状況が確認された。

これらのことから、当該保護林はニホンジカによる森林被害が顕在化している地域と判断される。

大杉谷森林生態系保護地域 位置図



保護林内での注意事項

- ★貴重な植物群落の保護にご協力ください。
 - ★植生の荒廃防止のため、歩道を外れて歩かないでください。
 - ★許可なく動植物の捕獲及び採取をしないでください。
- ※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。